

経産局で働くと何ができる？ 私たちの提供価値

先輩職員インタビュー 係長（2009年度入局）

所属：産業部 中小企業課

氏名：荒木 愛

入局：2009年度（平成21年度）

事務官／技官：事務官

略歴：

2009年4月～ 地域経済課

2010年4月～ 企画課（現：企画調査課）

2011年4月～ 農商工連携課（現：食・観光産業課）

2013年4月～ 東北経済産業局 次世代産業室【出向】

2014年4月～ 総務課 局長秘書

2015年5月～ 本省資源エネルギー庁 電力市場整備室（現：電力産業・市場室）電気計器係長【出向】

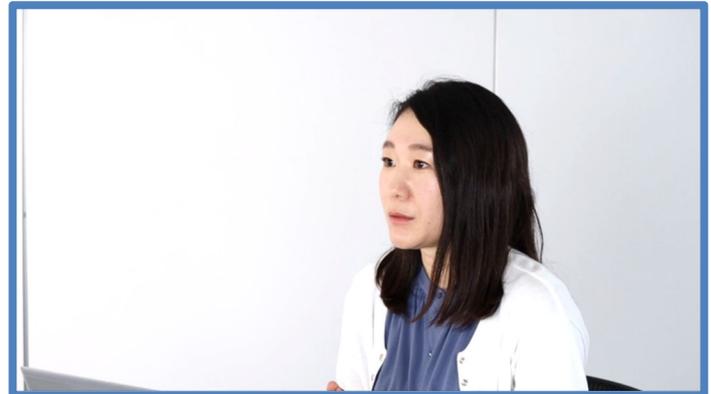
2017年7月～ 英国長期留学【留学】

2018年3月～ 本省通商政策局欧州課 欧州二係長【出向】

2020年1月～ 総務課→産休・育休【育休】

2021年4月～ 健康・サービス産業課 サービス産業係長

2023年4月～ 中小企業課 総括係長



Q：入局年度を教えてください。

2009年度の入局です。現在、入局14年目で、産業部中小企業課で総括係長として勤務しています。

Q：入局した際の志望動機を教えてください。

経済産業省が幅広い業務を所掌しているということ。そして、北海道で働きたかったということ、この2つが大きかったです。

Q : 経産局がどのような組織か、入局前に具体的なイメージはついていましたか？

いいえ、正直あまり（笑）。経済産業省の出先機関なので、経産省のやっているたくさん仕事を地方でやっている組織なんだろうという程度で、そんなに具体的にはイメージできていませんでした。

Q : 入局してみて入局前の印象とのギャップはありましたか？

そんなにギャップはなかったです。仕事を選ぶ際に国と自治体どちらにしようかと迷ったところはありましたが、最終的に国の機関である経産局を選びました。仕組みや制度を作るといった、国としての仕事ができるというのを魅力に感じてこの仕事を選びましたが、実際、経産局に入ってそのような仕事も出来ていますし、本省に出向した際にも出来たと思っています。

Q : 入局してからのキャリアを教えてください。

1年目は地域経済課という部内の庶務・総括業務を行う部署でした。その後は局内を転々と異動し、東日本大震災から3年経った時に東北経済産業局に出向しました。東北局から戻ってきて局長秘書をして、その後本省に合計5年ほど出向し、北海道に戻ってきてから子どもを産んで、今は中小企業課で勤務しています。

Q : 色々体験できて飽きないキャリアですね。

そうですね。飽きないですね（笑）。

Q : 本省ではどのような業務をしていましたか？

本省にいたときは、電力産業・市場室という室に出向しており、ちょうど電力小売全面自由化がスタートするタイミングでした。電力小売全面自由化の業務に携われたことで、国の大きな流れのようなものを体感できました。一番大きな経験だと思います。

Q : 北海道を成長させる上での経産局の強みはなんでしょうか？

国としての強みというか、本省や東京へのパイプも使いながら、北海道という狭い目線ではなく、日本全体・世界全体という目線で解決策を見つけて行けたらと思います。

Q : 地域や企業に対する経産局の役割は何でしょうか？

我々は太鼓を叩くことしかできないので、実際に頑張ってもらくのは企業の方や地域の方になると思います。我々がいくら何をやりたいと思っても、自分たちの力だけではできないので、いかに企業や地域の方に実行したいという意識をもって頂けるかが、我々の仕事だと思っています。

Q：どのような点を大切に業務をされてきましたか？

前職は、健康・サービス産業課という課でサービス産業係長をしていたので、その時は企業の方や自治体の方に直接お会いしてお話をしていました。その際、如何に先方に意識をもってもらうか、やる気を出してもらうか、ということをお願いしていました。

Q：今の業務内容を教えてください。

今は中小企業課という部署で総括係長をしています。業務は中小企業施策全般や、課の庶務、また、災害対策や人権擁護の普及啓発も担当しています。

Q：今の業務の課題は何でしょうか？

中小企業向けの防災・減災の事前対策として、事業継続力強化計画の認定制度があります。企業に防災・減災の事前対策に関する計画を作って頂き、経産大臣が認定をするもので、認定を受けると補助金の加点になる等のインセンティブがあります。ただ、補助金申請のために計画を立てる、という手段と目的が逆転しているとおぼしき事例もあるので、歯がゆく感じています。本来の目的である防災・減災の意識を持って貰うべく、各地でセミナーなどを行っています。

Q：異動の度にテーマが変わりますが、どう感じていますか？

私にとっては面白いことですね。知的好奇心がずっと刺激され続ける職場です。飽きることはないと思います。

Q：育児をする職員にとって働きやすい職場だと感じますか？

私がしっかり両立できているかは自信がないですが（笑）、環境として、家庭と仕事の両立が成立しやすい職場だと思います。男性も最近は1ヶ月や半年など育休を取る人も増えているので、男性も女性も両立しやすい職場かと思っています。

Q：経産局の魅力・好きな所は何でしょうか？

好きな所は、業務の所掌範囲が広いので何でもできることです。先ほどから申し上げている飽きないという所が一番かと思っています。後は、人も良いと思います。ポジティブな人が多いの

で、何を言っても否定されないというか、年次に関係なく意見も言えますし、自由闊達な職場かなと思います。

Q：自由闊達なのは何故でしょうか？

何でなんでしょうね。この組織にいと、みんなそういう風に育つのだと思います（笑）。私も元々そんなに意見を言うようなタイプではないのですが、この職場にいたら何か言わないといけないみたいな感じになります。何か言われたらリアクションして当然、という雰囲気はあると思います。

Q：そのリアクションに対して否定されたりすることはないですか？

そうですね。ないと思います。そういったことが良いアイデア・提案などにも繋がっているのかなと思います。私自身、部下にはまず自分で考えてやってみようかと促すようにしています。

Q：北海道の持続的な成長に何が必要だと思いますか？

我々の立場からすると、北海道だけを見ずに日本全体・世界全体を見るマクロの視点が必要で、一方で企業さんの声を聞くというミクロの視点も大事にしながら政策を考えていくのが大事かなと思います。

Q：今持っている課題感があれば教えてください。

マクロの目線で俯瞰して見るには、日々の情報収集や勉強が必要になる一方、時間に追われると目の前のことに精一杯になってしまうので、そこは日々努力していきたいと思っています。新しいことを吸収していかなければいけない職場だと思います。

Q：入局時から経産局が変わってきたことはなんですか？

自分が入局した時は、製造業などの支援に注力していましたが、今は事業承継やアトツギ支援などソフト面での支援にも力を入れていると思いますし、入局した時にはなかったヘルスケアやスポーツといった、新しい分野への支援にも挑戦しています。その時々々の時流を捉えて、その時々々に必要とされていることをミッションにしている組織なんだと思います。

Q：自分自身が成長し続ける必要がある組織ですね

そうですね。それって結構大変なんですよ（笑）。大変ですけど面白いですし、そう思える人は当局に向いていると思います。

Q : どんな人に入局してきて欲しいですか？

どんな人でもいいかなって逆に思います。色々な意見があるとやっぱり面白いので、意外とネガティブな人がいてもいいのかなと思います。前向きな人ばかりだと突っ走ってしまうかもしれないので（笑）。

Q : 経産局で働く人に共通するこれが軸というのがありますか？

面白がれるかどうか、でしょうか。（経産局の人は）「それ面白いじゃん」と、大体の人が言っているような気がします。

Q : 新しくチャレンジしたいことはありますか？

経産省の本省の制度で、1年弱ほどイギリスに語学留学していたので、そういった所で得た知識や語学力を活かせるような職務に将来的に携われたらいいなと思います。留学した際は、海外で生活することを通して、変な度胸がついた気がします。

Q : 最後に、これから入局を志望される方にメッセージをお願いします。

入局を考えられている皆さん。北海道経済産業局は仕事、楽しいです！何でも出来ます！人も良いです！是非、一緒に働きましょう！

以上